

## 『将棋の話題パート1(驚異の勝率8割4分越え)』



今日7月21日から有馬温泉「中の坊瑞苑」で将棋王位戦第3局が行なわれています。藤井聡太王位・棋聖に豊島将之竜王・叡王が挑む七番勝負第三局です。

将棋界の若き天才藤井聡太九段のことをご存じの方は多いことと思います。段位は史上最年少の九段ですが、現在王位・棋聖の二冠保持者でもあります。

最近の将棋ブームもなかなかであり、特に将棋女子と呼ばれる若い女性の将棋ファンが増え「指す将」、以外にも「観る将」という言葉もあります。

婦人雑誌の「家庭画報」が20ページの特集を組み付録に将棋盤をつけました。

また雑誌「Number」も藤井二巻を2回特集し、2回目は累計23万部を発行したそうです。(ちなみにその後の佐藤輝明選手が表紙のタイガース特集は15万部。)

将棋界には名人・竜王をはじめ現在8つのタイトルがあります。(名人、竜王、王将、王位、棋聖、王座、棋王、叡王)。

以前は羽生善治九段が独占するなどありましたが、現在は四人の棋士渡辺明名人・棋王・王将、豊島将之竜王・叡王、永瀬拓矢王座、でタイトルを分け合って保持されています。

その中でも藤井二冠の活躍は目を見張る者があります。史上最年少14歳で四段昇段を果たした後、デビューから29連勝を果たし、その後もとどまらぬ活躍を続け、18歳の現在までの通算成績は227勝43敗で勝率はなんと8割4分を超えています。

ちなみに歴代の棋士と比較すれば大山康晴十五世名人は6割5分、谷川浩司十七世名人は6割、羽生善治九段は7割です。

比較して藤井二冠の勝率の高さがわかると思います。もちろんデビュー当初は強豪との対戦が少なく総じて高勝率を記録しますが、すでに二冠保持してタイトル戦に出ずっぱりの藤井二冠はトップクラスの対戦相手ばかりといっても過言ではありません。

その藤井二冠の苦手棋士はほとんどいないのですが、唯一といってもよい苦手棋士が豊島二冠です。これまでの通算成績は藤井二冠の2勝8敗です。

現在その豊島二冠との王位防衛戦(七番勝負)の最中で現在まで1勝1敗です。

この後、藤井二冠が豊島叡王に挑戦する叡王戦五番勝負が始まります。

また藤井二冠は竜王戦の挑戦者まであと一歩のところでもあり、もし挑戦となれば豊島竜王に挑戦する竜王戦七番勝負を含めて最大で豊島二冠との19番勝負になる可能性もあり、その結果によっては将棋界の勢力図が大きく変わる可能性もあります。

将棋ファンのみならず目の離せない状況となっております。